

I 急病のときの対応

16. 頭を打ったとき

家庭での処置

1. 意識の確認(受け答えがあるか、乳児の場合は泣いてるかどうか)。
2. 外傷による出血の確認(出血があれば圧迫して止血する)。
3. 楽な姿勢をとらせ患部を冷やす。

その後の対応



家庭で経過をみる、又は翌日に病院受診

機嫌もよく他に症状がない。



その時点で病院受診

頭痛、吐き気、嘔吐がある。痛みがおさまらない。
ぶつけたところがへこんだままている。
外傷部の出血がある。耳だれ、鼻血がある。



緊急に病院受診、救急車要請

意識がはっきりしない。けいれんがある。麻痺がある。外傷部の出血がひどい。

家庭で看る時のポイント

頭を強くぶつけても、直後は痛いので泣くことが多いのですが、泣き終わった後に元気があり、普段と変わらなければ様子を見ます。

ぶつけた事による症状は通常24時間以内に出る事がほとんどですが、多くは直後に出ます。よって、ぶつけたとき何事もなければ、後の24時間を吐かないか、頭痛はないか、ポーッとすることはないかなど注意しておきます。

大きなこぶが出て、元気のあるときはあわてて受診する必要はなく、冷やして置きます。

ベビーベッドなどから時々落下することがありますが、同様に機嫌が良く、痛がる様子がなければ、様子を見ます。抱き上げたり、体を動かすと泣く時は、頭部以外の打撲、骨折の時もあるので、全身を注意深く観察しましょう。